

Economic Indicators

発表日: 2023年7月20日(木)

貿易統計(2023年6月)

～実質輸出に下げ止まりの兆し～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量				
		原数値	季調値	金額		前年比	地域			前年比	地域		
				輸出金額	輸入金額		アメリカ	EU	アジア		アメリカ	EU	アジア
				前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
22年	1月	▲ 22,201	▲ 8,787	9.5	39.0	▲ 4.6	▲ 1.1	9.7	▲ 10.5	4.7	4.6	20.9	3.8
	2月	▲ 7,115	▲ 10,302	19.1	34.6	2.8	5.0	2.0	6.1	▲ 0.8	6.0	13.0	▲ 5.4
	3月	▲ 4,649	▲ 9,936	14.7	31.9	▲ 1.4	11.7	7.6	▲ 7.2	0.0	▲ 2.0	2.9	▲ 0.3
	4月	▲ 8,549	▲ 14,438	12.5	28.3	▲ 4.5	7.9	6.8	▲ 8.2	▲ 8.9	▲ 10.2	5.2	▲ 15.5
	5月	▲ 23,661	▲ 18,279	15.8	48.5	▲ 3.5	▲ 1.1	▲ 2.0	▲ 4.2	4.6	▲ 1.7	6.3	3.1
	6月	▲ 13,750	▲ 19,231	19.2	45.6	▲ 1.6	▲ 1.7	6.7	▲ 2.5	1.3	▲ 1.8	▲ 6.7	2.0
	7月	▲ 14,219	▲ 21,452	19.0	46.9	▲ 2.0	▲ 5.6	17.3	▲ 2.2	2.2	17.5	▲ 4.2	2.2
	8月	▲ 27,904	▲ 22,939	22.0	49.3	▲ 1.1	10.4	▲ 1.5	▲ 3.9	2.7	4.0	▲ 8.4	4.1
	9月	▲ 20,992	▲ 20,631	28.9	45.8	3.8	18.2	11.2	▲ 2.5	▲ 1.6	1.8	5.8	▲ 0.1
	10月	▲ 21,715	▲ 22,374	25.3	53.6	▲ 0.3	4.7	9.3	▲ 6.1	5.6	4.9	22.8	6.0
	11月	▲ 20,319	▲ 18,036	20.0	30.3	▲ 3.6	1.0	9.0	▲ 8.3	▲ 4.6	▲ 7.7	3.2	▲ 4.7
	12月	▲ 14,586	▲ 18,464	11.5	20.8	▲ 7.1	▲ 2.7	10.1	▲ 12.3	▲ 6.4	▲ 5.4	11.2	▲ 10.3
23年	1月	▲ 35,064	▲ 17,769	3.5	17.6	▲ 10.9	▲ 3.4	▲ 4.3	▲ 15.3	▲ 2.3	▲ 10.5	▲ 6.6	▲ 3.1
	2月	▲ 9,199	▲ 12,394	6.5	8.5	▲ 7.9	▲ 1.2	1.4	▲ 12.8	▲ 7.8	▲ 6.3	0.1	▲ 8.7
	3月	▲ 7,588	▲ 11,998	4.3	7.4	▲ 8.2	▲ 9.2	▲ 12.6	▲ 10.7	▲ 2.5	▲ 3.1	▲ 3.6	▲ 0.8
	4月	▲ 4,364	▲ 9,921	2.6	▲ 2.3	▲ 6.1	▲ 5.6	▲ 2.4	▲ 12.6	▲ 0.3	▲ 7.6	▲ 3.5	4.2
	5月	▲ 13,819	▲ 7,710	0.6	▲ 9.8	▲ 6.4	▲ 4.1	0.2	▲ 12.5	▲ 5.1	▲ 5.1	▲ 2.3	▲ 5.6
	6月	430	▲ 5,532	1.5	▲ 12.9	▲ 4.8	▲ 3.9	0.0	▲ 11.4	▲ 6.0	▲ 10.8	9.9	▲ 5.1

(出所) 財務省「貿易統計」、前年比(%)

○貿易収支は、原数値で黒字転化、季節調整値でも赤字縮小が進む。

財務省より発表された23年6月の貿易統計では、輸出金額が前年比+1.5%、輸入金額が同▲12.9%、貿易収支は+430億円の黒字（事前の市場予想：▲417億円の赤字）となった。資源価格の下落を背景に輸入金額の前年比マイナスが続いたことで、貿易収支は21年7月ぶりの黒字転化となった。季節調整値でみた場合の貿易収支は▲5,532億円の赤字と依然として高水準の赤字な点には注意が必要だが、輸入の減少と輸出の底入れによって、赤字幅の縮小傾向が続いている。

○実質輸出が下げ止まり

6月は、輸出に下げ止まりの兆しが出てきたことに注目される。物価変動の影響を除いた実質輸出（季節調整値）は前月比+3.9%と2か月ぶりの増加となった。年明け以降、部品等供給不足の緩和による自動車輸出の急速な回復が、実質輸出全体を牽引している構図は変わらない。もっとも、6月にはこれに加えて、一般機械、電気機器といった自動車以外の機械類も増加に転じており、実質輸出は下げ止まりの動きが窺える内容となった。

4-6月期でみると、実質輸出は前期比+2.8%と3四半期ぶりの増加となった。地域別には、米国向けが同+3.2%（1-3月期：▲1.8%）、欧州向けが同+9.9%（1-3月期：▲3.2%）、アジア向けが同+0.1%（1-3月期：▲4.2%）、うち中国向けが同+3.4%（1-3月期：▲7.9%）といずれの地域も増

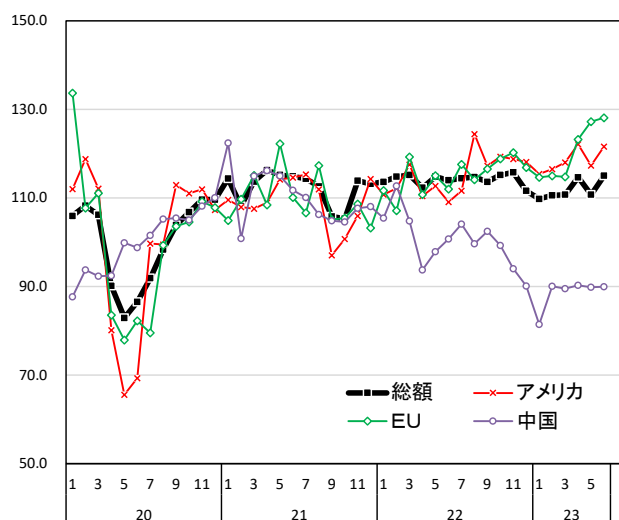
加に転じた。自動車含む輸送用機器は、4-6月期は前期比+11.4%と急速なペースで回復となり、自動車輸出のウェイトが大きい米国向け、欧州向けは自動車輸出の回復に支えられている。その一方、中国向けについては4-6月期はプラスに転じたものの、22年10-12月に前期比▲7.5%、23年1-3月期に▲7.9%と大幅減が続いた後の戻りとしては弱い。

実質輸出の先行きについては、米国向け、欧州向けは自動車輸出のウェイトが大きいため、今後も自動車輸出が牽引役となるだろう。ただし、これまでの金融引き締め政策の悪影響による海外経済の減速や、中国経済の停滞感から下押し圧力は強く、回復のペースは緩慢なものに留まるだろう。

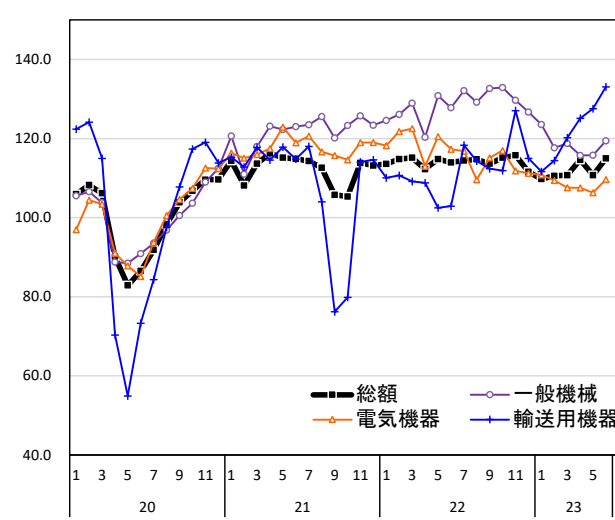
○季節調整値での貿易収支は、年内は赤字推移が続くと見込む

季節調整値でみた貿易収支の先行きについては、次のように見込む。これまで速いペースで減少してきた輸入については、足元の原油価格（ドバイ）は振れを伴いながら70ドル付近での推移となっていることから、今後は下げ止まる可能性が高い。その一方で、輸出は自動車の回復を牽引役として下げ止まりの兆しが見えてきたことから、貿易収支（季節調整値）の赤字縮小は今後も継続するだろう。ただし、海外経済の減速感の強まりから輸出の回復は緩慢なペースに留まる可能性が高く、年内の貿易収支（季節調整値）は赤字での推移が続くと見込む。

(2020年=100) 地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(2020年=100) 財別実質輸出(季節調整値)の推移



(出所) 財務省 ※実質化および季節調整は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。